

# 2019年3月期 第1四半期 業績概要

窪田 顕文  
アンリツ株式会社  
取締役 CFO

2018年7月31日



東証第1部：6754  
<https://www.anritsu.com>

**Anritsu**  
envision : ensure

(ノート部記載なし)

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

## 目次

- I. 事業概要
- II. 2019年3月期第1四半期 連結決算概要
- III. 2019年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 5G最新動向と当社のソリューション

（ノート部記載なし）

# I. 事業概要

**T&M事業**  
ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場 : 5 G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備



**PQA事業**  
食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機



**その他**

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2018年3月期 実績(連結) : 860億円

T&M 63%			PQA 26%	その他 11%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 32%	エレクトロニクス 23%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 20%	アジア、パシフィック 38%	米州 23%	EMEA 19%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement    PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

## II - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

### ▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	202	226	24	12%
売上高	194	210	16	8%
営業利益	△2	16	18	-
税引前利益	△2	18	20	-
当期利益	△2	17	19	-
当期包括利益	2	21	19	745%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比12%増の226億円、売上高は前年同期比8%増の210億円となりました。営業利益は前年同期比18億円増の16億円となりました。

当期利益は前年同期比19億円増の17億円、当期包括利益は21億円となりました。

なお、米国現地法人において未払法人所得税の引当見直し(約5億円減額)があったことなどにより、第1四半期の税金費用は52百万円となりました。

## II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5GおよびLTE-A Proの需要で増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	131	144	13	10%
	営業利益	△5	15	20	-
PQA	売上高	47	49	2	5%
	営業利益	3	2	△1	△52%
その他	売上高	17	17	0	△1%
	営業利益	1	1	0	△27%
調整額	営業利益	△1	△1	0	-
合計	売上高	194	210	16	8%
	営業利益	△2	16	18	-

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

(注3) 当第1四半期連結会計期間から本社管理費等の各事業セグメントへの配分方法を変更しており、前連結会計年度の数値は組替再表示しています。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision: ensure

6

Financial Results FY2018 1Q  
Copyright © ANRITSU

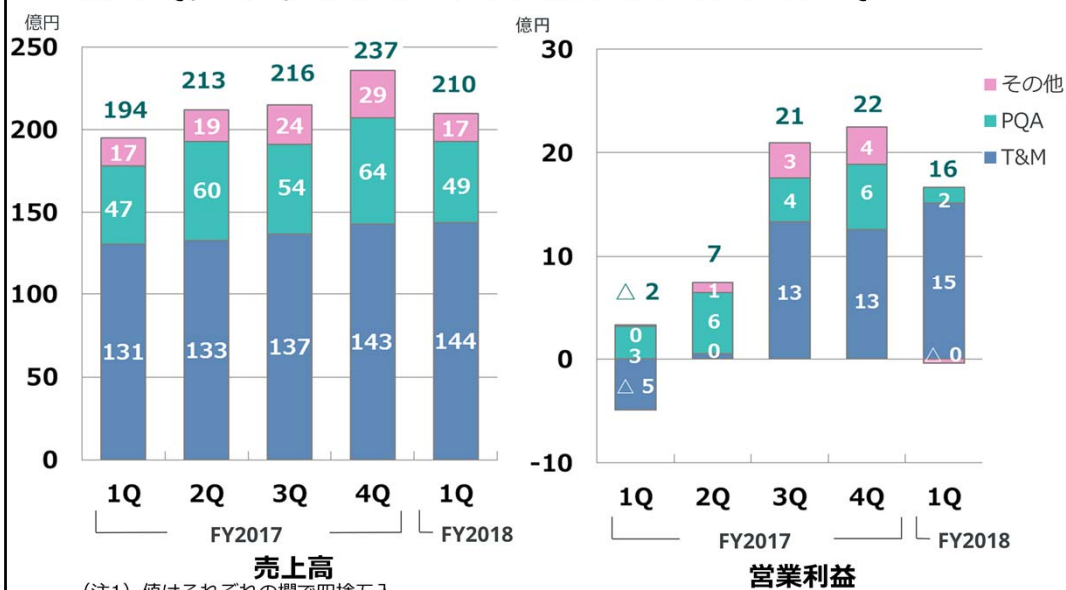
T&M事業は、5GおよびLTE-A Proの需要で前年同期比増収増益となり、営業利益は15億円(営業利益率10.5%)となりました。

PQA事業は、前年同期比2億円の増収でしたが、競争力強化のための投資により、営業利益は前年同期比1億円減収の2億円(営業利益率3.1%)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、各事業セグメントの業績をより適切に評価するため、これまで各事業セグメントに配分していた一般管理費のうち本社管理費等を全社費用に含めるよう配分方法を変更しています。前連結会計年度の数値は、変更後の表示に合わせて組替再表示しています。

## II - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 1Q(4-6月)営業利益率：連結8%, T&M11%, PQA 3%



(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入  
(注2) 営業利益の「その他」には「調整額」が含まれています。

Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2018 1Q  
Copyright© ANRITSU

第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

- 連結 16億円(営業利益率: 7.8%)
- T&M 15億円(営業利益率:10.5%)
- PQA 2億円(営業利益率: 3.1%)

## II - 4. 事業別営業概況

セグメント	2019年3月期第1四半期（4月-6月）の状況	
<p>➡ <b>T&amp;M</b> : 5G商用化のロードマップが具体化</p>		
モバイル	LTE-Advanced	LTE-Advanced Proへの投資にシフト
	5G, IoT, Connectivity	5G NSA初期需要立ち上がる
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調	
アジア	スマホ製造市場は成長鈍化するも堅調に推移	
米州	LTE-A Proに加え5G初期開発需要立ち上がる	
<p>➡ <b>PQA</b> : 国内・海外とも食品市場の品質保証、自動化、省力化の投資が堅調に継続</p>		

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA : Products Quality Assurance

NSA: Non Stand Alone

**Anritsu** envision:ensure

8

Financial Results FY2018 1Q  
Copyright© ANRITSU

T&M事業においては、3GPP 5G NSA (Non Stand Alone)、SA (Stand Alone) の標準化が完了し、各国主要キャリアの商用化のロードマップが具体化してきました。

それに伴い、当社が、2018年4月に市場投入した、5G 商用化に向けたチップセット研究開発用途のラジオコミュニケーションテストステーションMT8000Aの初期需要が立ち上がってきました。

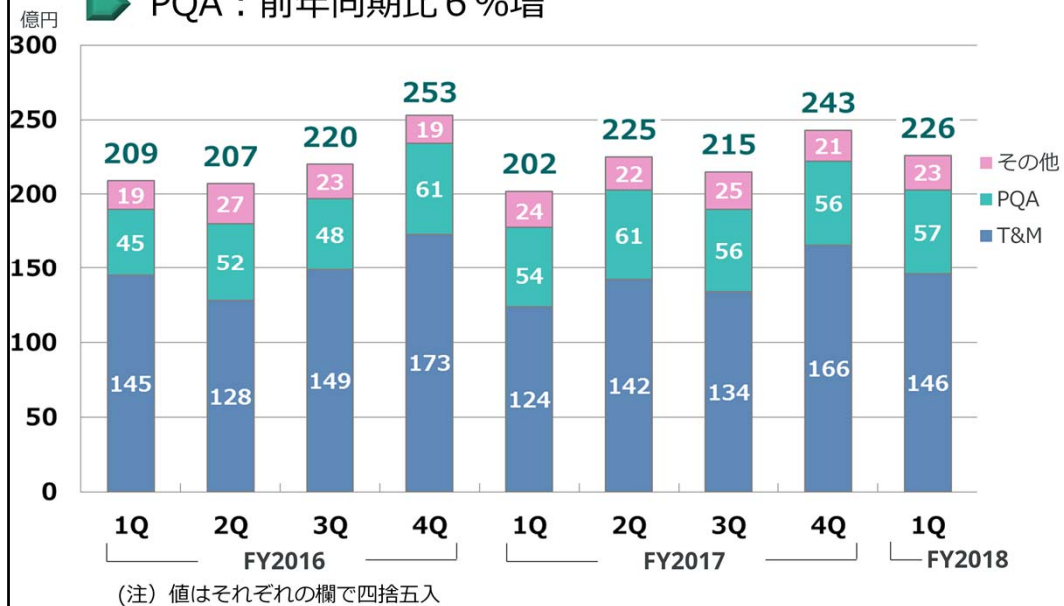
PQA事業においては、国内・海外とも食品市場の品質保証プロセスの改善強化、自動化、省力化に向けた設備投資が堅調に継続しています。



## II - 5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比18%増

➡ PQA：前年同期比6%増



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2018 1Q  
Copyright© ANRITSU

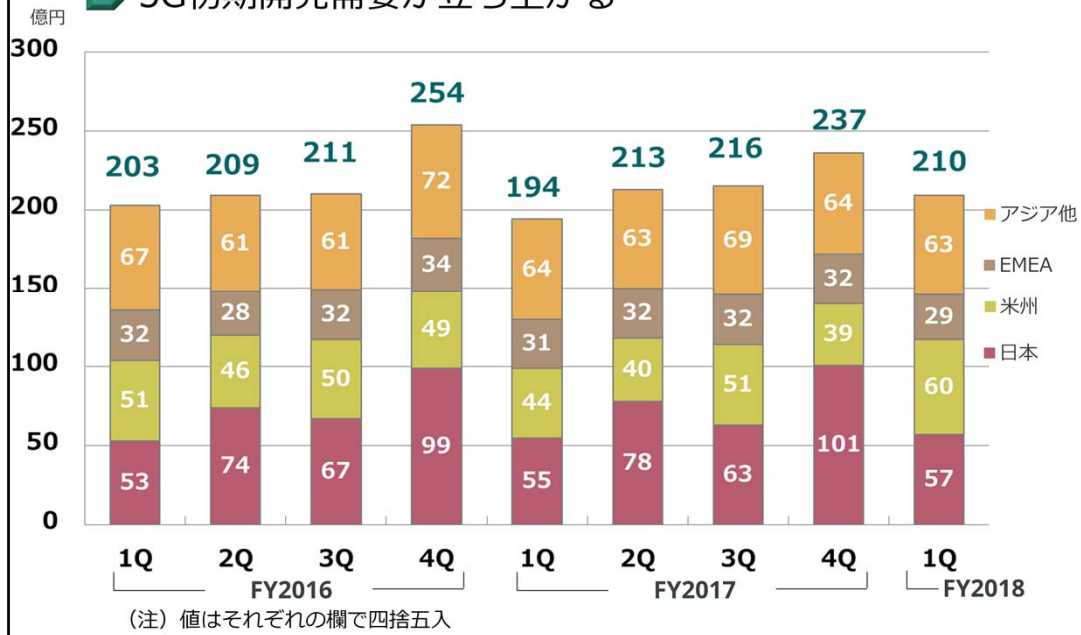
T&M事業の第1四半期受注高は、全地域で立ち上った5G初期需要およびLTE-A Proの需要などを取り込み、前年同期比22億円(18%)増の146億円でした。

PQA事業の第1四半期受注高は、前年同期比3億円(6%)増の57億円でした。

なお、受注残高はグループ全体で227億円(前年同期比20%増)、T&M事業では160億円(同28%増)、PQA事業では51億円(同6%増)でした。

## II - 6. 地域別売上高推移

➡ 5G初期開発需要が立ち上がる



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2018 1Q  
Copyright © ANRITSU

米州市場は5G初期需要に支えられて、前年同期比38%増収でした。

## II - 7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率24.1%

### FY2018 1Q

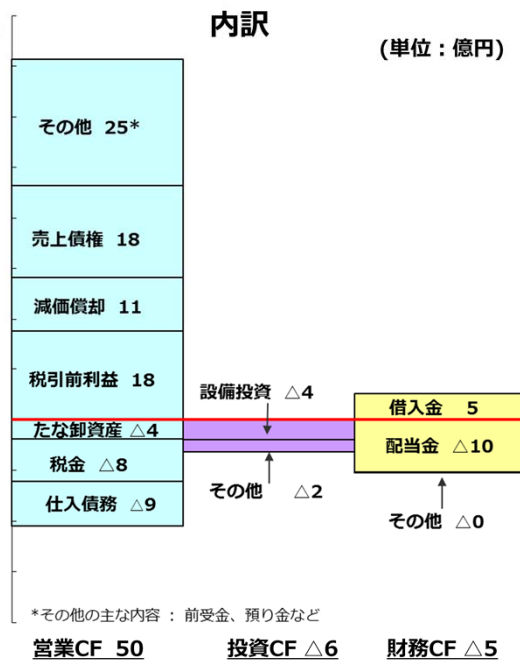
- ① 営業CF : 50億円
- ② 投資CF : △6億円
- ③ 財務CF : △5億円

**フリーキャッシュフロー**  
(①+②) : 44億円

**現金同等物期末残高**  
394億円

**有利子負債高**  
165億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、50億円の資金獲得となりました。  
投資キャッシュフローは、6億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは44億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、5億円の資金支出となりました。主なものは、銀行借入金5億円、配当金の支払い10億円(期末配当分1株7.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より40億円増加の394億円となりました。

### Ⅲ. 2019年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月26日公表値のとおり

（単位：億円）

		2018/3期	2019/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		860	920	60	7%
営業利益		49	66	17	34%
税引前利益		46	66	20	43%
当期利益		29	50	21	72%
T&M	売上高	544	600	56	10%
	営業利益	21	35	14	63%
PQA	売上高	225	235	10	4%
	営業利益	20	20	0	2%
その他 +調整額	売上高	90	85	△5	△5%
	営業利益	8	11	3	38%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY17為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=130円  
FY18想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

2019年3月期の通期業績の見通しは4月26日の公表値から変更はありません。

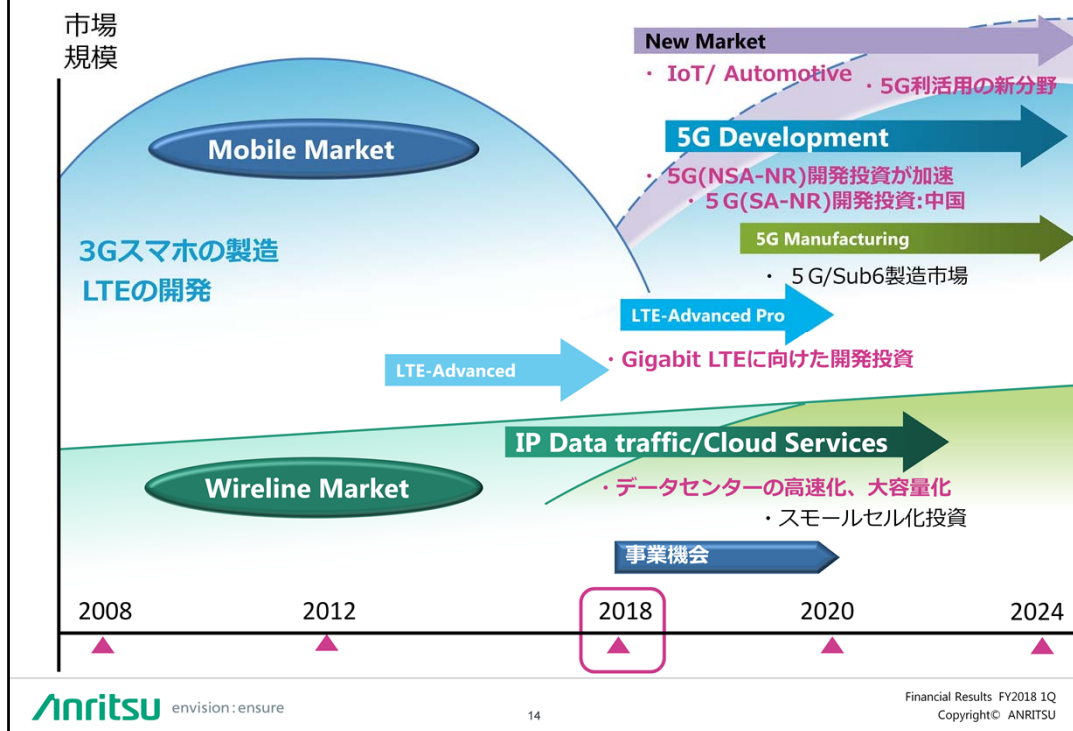
## IV. 5G最新動向と 当社のソリューション

アンリツ株式会社  
代表取締役 社長  
計測事業グループプレジデント

**濱田 宏一**

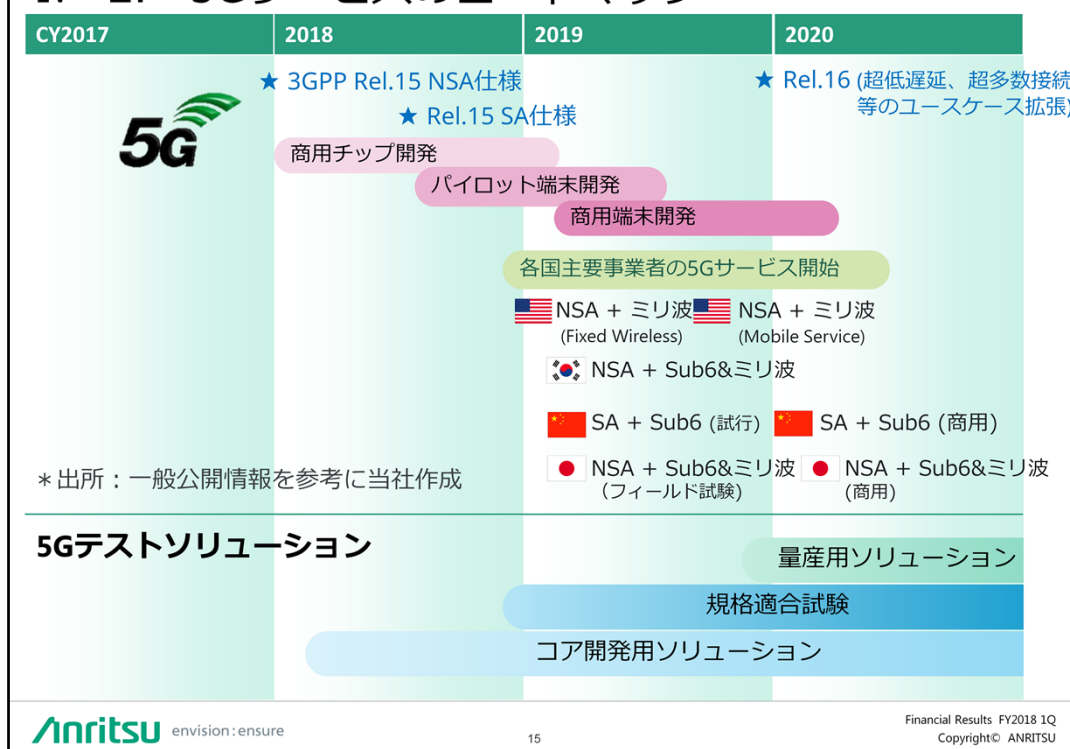
(ノート部記載なし)

## IV- 1. 計測市場トレンドと事業機会



モバイル計測市場のうち、当面はセルラーテスト市場は5Gの初期開発投資を軸にして拡大していくことが予測されます。

## IV- 2. 5Gサービスのロードマップ



5Gサービスの最新のロードマップを紹介します。

3GPPでは、2017年12月に5G NSA-NRの標準化が完了しました。引き続き、2018年6月に5G SA-NRの標準化が完了し、5Gの主要機能の全仕様が規定されました。

NSA-NRは、5G単独ではなく4Gとのセットを前提とし、5Gサービスを実現するための規格です。一方、SA-NRは、5G単独で5Gのサービスを実現するための規格です。世界の主流は、NSA-NRですが、中国ではSA-NRで5Gを展開する見込みです。

また、5Gで使用される周波数帯は、ミリ波帯と6GHz未満(Sub6GHz)の2つが検討されており、各国のオペレータにより使用する周波数帯が異なります。

アメリカでは2018年後半から商用のサービスが開始される予定です。韓国では2019年に、中国、日本では2020年に商用のサービスが予定されています。

当社は、5Gチップセット開発に必要な測定器およびそれに続くコンFORMANCEテストシステムを提供していきます。

### IV- 3. 5Gチップセット・端末開発用ソリューション

5G市場向けチップセットや端末などの開発用テストである  
ラジオコミュニケーションテストステーション MT8000A  
の出荷を開始

チャンバー（電波暗箱）



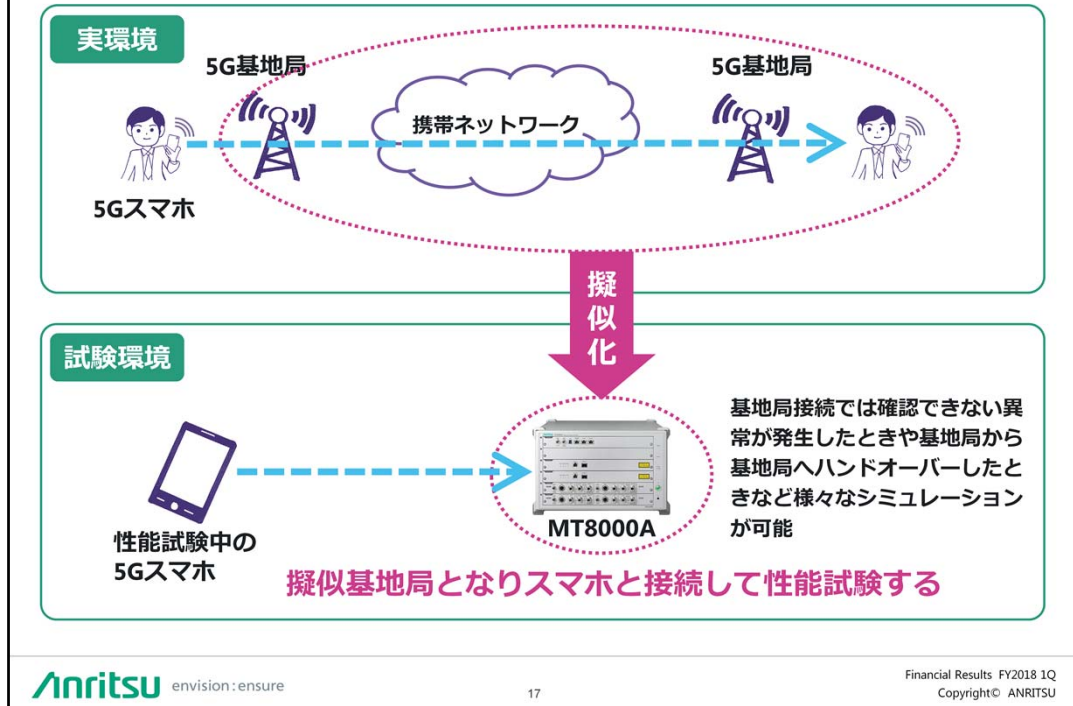
MT8000A



当社が、2018年4月に投入した5G向けチップセットや端末などの開発用テストであるラジオコミュニケーションテストステーションMT8000Aの特徴を説明致します。



#### IV- 4. MT8000Aの役割



MT8000A は、擬似基地局となる機能を有しており、チップセットや、チップセットが搭載されたスマートフォンや通信デバイスと無線通信で接続し、機能・性能を評価するために使用されます。3GPPの最新の5G NRの規格に対応できるように、規格の進化に追従する柔軟な拡張性を持っており、さまざまなテスト要件に対応が可能です。また5G NRで必要となるSub6GHzやミリ波の周波数にも対応しております。

## IV- 5. 高い周波数（ミリ波）の測定技術

### 低い周波数の場合



ケーブル接続することによって  
正確に測定ができる

### 高い周波数（ミリ波）の場合

チャンバーを使ったOTA  
(Over The Air) 接続で正確に  
測定ができる



5G端末はミリ波帯をしますが、周波数帯域幅が広く、アンテナエレメントの数が多いため、従来の測定用外部RFコネクタがありません。また、ビームフォーミングを用いるためその指向性を評価する必要があります。そこで、5G測定器では新たにOTA(Over The Air)、広帯域幅対応が求められます。MT8000Aは、OTAチャンバー(電波暗箱)と組み合わせることで、3GPPで規定された呼接続によるミリ波帯のRF測定やビームフォーミング試験をサポートします。



(ノート部記載なし)